



5年ぶりの収穫祭豚汁

校長 敦澤 雅規

私が昨年度九中に着任し、5月8日に新型コロナが5類になったことを受け、実に4年間中止となっていた収穫祭での豚汁喫食をどうするか、教職員の間でも話題になりました。最終的に、5類になったとはいえまだまだ予断を許さない状況での喫食や調理は、難しいと判断しました。そして今年度。ようやく5年ぶりに収穫祭での豚汁作りにチャレンジです。とはいっても当時を知る教員も少なくなり、実際に調理してくださるPTAの方々も残されたレシピに頼る状況です。それでもPTAの役員さんやお手伝いさんたちによって、着々と準備をしていただきました。そして収穫祭当日。感謝の集いを行い、仲間やボランティアの方々に想いを伝え、太鼓と卒業生の先輩がつくった九中音頭に乘せて踊り、収穫した「命」を豚汁にさせていただきました。生徒のみなさんに声をかけると、笑顔で口々に「美味しい!」。リアクションが嬉しかったです。これまでずっと農園活動に汗を流してきた1年生はもちろん、2、3年生も昨年・一昨年を思い出して美味しくいただいたことと思います。こんな九中ならではの伝統の「収穫祭」を誇りに感じます。ぜひこれからも可能な限りで続けていきたい九中の特色ある教育活動だと感じました。年間を通じてご指導いただいた農園ボランティアの方々、豚汁を調理していただいたPTAの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

～収穫祭・感謝の集いでの話～

九中では地域の方々のご協力・ご支援を頂きながら、生徒が参加する「九中農園」を25年間にわたって実施してきました。これは九中ならではの特色ある教育活動です。今年も、農園ボランティアの方々や地域の方々のご協力により「九中農園」から、とうもろこし、枝豆、スイカ、里芋、ごぼうなどたくさんの農作物を収穫することができたことをとても嬉しく思っています。特に今年も猛暑でしたので、1年生のみなさん収穫は大変でしたね。

この「九中農園」「収穫祭」の活動を通して、みんなで力を合わせて働くことの大切さや収穫の大変さと喜び、地域の方々への感謝の気持ちを学んでほしいと思います。種や苗から命を植え、肥料や水をあげて命を育み、雑草を取り、収穫し、祝い、最後にありがたく命をいただくことで、九中の農園活動が完結します。これらは、九中生にしか味わえないものです。今日は農園活動が果たす役割の大切さを改めて噛みしめ、九中音頭を踊りながら、また5年ぶりに豚汁をいただきながら、収穫を祝いましょう！（以下省略）

